

## 平成27年度発掘調査遺跡の紹介

### 堂古遺跡 (上越市大字米岡地内ほか)

堂古遺跡は、飯田川左岸の自然堤防上に立地する中世（13～15世紀）の遺跡で、標高は13.3～14.5mです。国道253号上越三和道路の建設に伴い、平成26・27年度に発掘調査を行いました。調査面積は合計6,627㎡です。

2か年の調査で、掘立柱建物や堅穴状遺構、井戸・溝・土坑などを検出しました。掘立柱建物は12棟見つかり、その多くは側柱建物ですが、廂や張り出しが付く建物もあります。これらの建物は地形に合わせ、主軸をそろえて建てられています。井戸は93基確認でき、その多さが目立ちます。井戸は建物の周辺にも分布しますが、調査区中央やや西よりに濃密に分布しています。建物と井戸では構築する場所を変えている可能性も考えられます。井戸は素掘りがほとんどですが、埋土の堆積状況から井戸側が設置されたと推測できるものもあります。規模は径1～3m、深さ2～3mほどで、珠洲焼や刀子・漆器碗が出土した井戸もあります。また調査区西側では幅4m、深さ1.3mの大型の溝が見つかり、この溝の東西では遺構密度に差がありますが、遺構の希薄な西側でも掘立柱建物や井戸が見つかり、居住域として利用されたことが分かります。この溝は、埋土の堆積状況から、13世紀後半に始まり2時期の変遷があることも分かりました。溝を掘って使用した後に規模を縮小して使い、最終的に近世前半に埋め戻されて役目が終わったようです。今後、溝の時期的な変遷と遺構密度の関係などを検討することで、溝の機能が明確になると思います。

中世の遺物は珠洲焼・輸入陶磁器・木器のほか、刀子などの鉄製品、砥石なども出土しています。

堂古遺跡は13～15世紀の集落であることが分かり、集落の構造や特徴も浮かび上がりつつあります。西側に隣接する下割遺跡や飯田川対岸の二反割遺跡と相互に比較検討することで、飯田川流域の中世の様子が判明してくると思います。  
(山崎忠良)



調査区遠景(上空東から)



井戸の底から出土した珠洲焼



大型の溝

## かぶ き 蕪 木 遺 跡

(阿賀野市大字堀越字蕪木地内)

蕪木遺跡は、阿賀野川や小里川によって形成された自然堤防上に立地する平安時代・鎌倉時代に営まれた集落と考えられます。国道49号阿賀野バイパスの建設に伴い、平成26年、27年の2か年にわたって発掘調査が行われました。調査面積は26年が5,915㎡、27年は1,048㎡です。ここでは平安時代の大型建物を中心とした集落の調査成果を紹介します。

平安時代の遺跡としては、平成26年に大型掘立柱建物2棟、溝5条、土坑7基など、27年に掘立柱建物2棟、溝11条、土坑9基、道路状遺構1条などを調査しました。大型建物跡2棟は重複していて、建て替えられたものと考えられます。新しい方のSB1は長さ約16m、幅約9.5mで2面または4面にひさしにあまに付くもので、この時期の建物としては県内でもきわめて大型のものになります。建物長辺の外側で確認された雨落ち溝とみられる溝から多数の須恵器・土師器・黒色土器が出土した点も注目されます。時期は9世紀後半です。古い方のSB2は、すえき 廂はありませんが長さ約14m、幅約6mとこちらも大型です。平成27年度に調査した道路状遺構は波板状の凹凸面が連続して並ぶもので、道路の下部構造と考えられます。ただし、周辺の平安時代の遺構よりも新しく、また26年調査の大型建物の方向とも対応しないことから、道路状遺構と平安時代の遺構との関連性は確認できていません。あるいは中世以降のものの可能性も考えられます。

蕪木遺跡の大型建物はその規模から郡の役所（郡衙）との関連が想定されますが、調査範囲が限られていることもあって、周囲からはそうした関連を裏づける建物などの施設は確認されていません。遺跡が形成された要因として河川交通も想定されます。遺跡東側には埋没した古い河川の跡があり、発掘調査によって船着き場などの発見も期待されましたが、そうした遺構は確認できませんでした。現時点では、遺跡が形成された背景には不明な点が多いのですが、今後、周辺遺跡の調査の進展に期待しながら注視していきたい遺跡です。

(沢田 敦)



遺跡遠景(西から)



平安時代の大型掘立柱建物跡(北東から)



道路状遺構完掘(東から)



大型掘立柱建物跡雨落ち溝出土の土器



## 平成27年度整理作業遺跡の紹介

## 六反田南遺跡中・下層(土器編)

(糸魚川市大字大和川字六反田地内)

前は石器を紹介しましたが、今回は土器です。六反田南遺跡の上層からは弥生時代・古墳時代・古代、中層では縄文時代中期中葉、下層では中期前葉～中葉のムラが見つかっています。遺跡全体を調査したわけではありませんが、縄文時代には大規模な集落であったと考えられます。

土器は主に集落外の廃棄域から多く出土しています。廃棄域は当初低く溝状であったものが、多くのものが廃棄されたため、盛り土状となっていました。また、上層と中層、中層と下層の間は、それぞれ洪水堆積によって埋まったため、保存状態が良く、他の縄文時代中期の遺跡に比べて土器の残存率が非常に高く、復元された個体も多くありました。現在、土器の実測作業を進めています。

新潟県の縄文時代中期と言えば、<sup>かえんがたどき</sup>火炎型土器を代表とする<sup>かえんどきぐん</sup>火炎土器群が有名ですが、この糸魚川地方ではほとんど出土しません。当遺跡でも火炎土器そのものは出土せず、類似のものが数点確認されています。火炎土器は新潟県のほぼ全域がその分布圏ですが、糸魚川地域はその一番はずれに位置します。糸魚川地域は富山県や石川県を中心とした北陸地方の土器文化圏に属します。したがって、当遺跡でもほとんどが北陸の土器となります。この時期の北陸地方の土器は、中期前葉が新保・新崎式土器、中葉が上山田・天神山式土器と呼ばれています。新保・新崎式土器の特徴は、<sup>はんさい</sup>半截した竹管を用いて<sup>ちくかん</sup>平行線や<sup>つめがたもん</sup>爪形文を描くことです。また上山田・天神山式土器の特徴は全面に粘土紐を貼付けた隆帯で渦巻きやS字文を描くことです。火炎土器と共通する表現方法です。当遺跡では、このような在地の土器のほか、他地域の土器もかなり出土しています。東北地方の大木式と呼ばれる土器があります。遠く舟を利用して南下してきたと思われます。また、信州方面の土器も見られます。石器で紹介したように、当遺跡はブランド品である<sup>じやもんがん</sup>蛇紋岩製の<sup>ませいせきふ</sup>磨製石斧の生産遺跡です。これらを求めてやって来たのでしょう。また、富山県や石川県とも異なる六反田南遺跡独自の文様を持つ土器もありますし、北陸と信州の土器文様が融合したものもあり、人の往来が盛んであったことを反映しています。

中葉の上山田・天神山式土器の大きな特徴は、器形にあります。前葉の新保・新崎式土器は、縦に細長い深鉢が主流でしたが、中葉では口縁部の径が高さを上回る鉢型で、底部がすぼまり、胴部に膨らみを持つものが多く見られます。また、高台の付いた土器もあります(中段写真・左の土器)。このような器形は他の地域ではあまり見られませんが、この時期だけの特徴となっています。これらの土器は煮炊きに使われていますが、胴部に膨らみを持っていることから、より熱効率が良かったと考えられます。

各地域の文様をもつ土器は、当遺跡がブランド品である蛇紋岩製磨製石斧の生産供給拠点であること、海岸に面していることを反映した人の動きをよく表わしていると言えます。

(高橋 保)



新保・新崎式土器



特徴ある土器の形(上山田・天神山式土器)

各地の影響を受けた土器  
(左:東北、中:信州、右:信濃川流域)

## 現地説明会・遺物展示会を開催しました

### ■現地説明会

平成27年度は10遺跡の発掘調査を行い、阿賀野市・柏崎市・上越市で現地説明会を開催しました。説明会では、検出した遺構や遺物について調査員が現地で説明し、参加者からの質問に答えました。また、二反割遺跡では、近隣で調査を実施していた下割遺跡・堂古遺跡の遺物も展示しました。

遺跡名	事業名	所在地	主な時代	現説実施日	参加人数
さかいづか 境塚遺跡	国道49号阿賀野バイパス	阿賀野市	縄文・中世	6月27日 10月3日	231 109
やまぐちのなか 山口野中遺跡	国道49号阿賀野バイパス	阿賀野市	中世	6月27日	境塚遺跡と合同開催
やまざき 山崎遺跡	国道8号柏崎バイパス	柏崎市	古代・中世	9月12日	82
おかえ 丘江遺跡	国道8号柏崎バイパス	柏崎市	弥生～古墳・中世	9月12日	87
しもわり 下割遺跡	国道253号上越三和道路	上越市	古代・中世	9月26日	二反割遺跡で遺物展示
どうこ 堂古遺跡	国道253号上越三和道路	上越市	古代・中世	9月26日	二反割遺跡で遺物展示
にたんわり 二反割遺跡	国道253号上越三和道路	上越市	古墳・古代・中世	9月26日	63

※現地説明会の当日資料はホームページ（<http://www.maibun.net>）に掲載しています。

### ■遺物展示会

新潟県教育委員会・当事業団が発掘調査を行った遺跡の出土品を、遺跡のある地元で展示する取り組みを行っています。平成27年度は上越市・魚沼市・聖籠町（会期：2月9～28日 会場：聖籠町立図書館）で開催しました。上越市の展示会については『埋文にいがた』No.93で紹介しましたので、ここでは魚沼市の展示会について紹介します。

7月10日から11月3日に魚沼市中央公民館で「堀之内インターチェンジ供用開始20周年記念 清水上遺跡 出土品展」として縄文土器や石器を展示しました。清水上遺跡は新潟県でも有数の縄文時代中期の環状集落で、捨て場から火炎土器を含む大量の縄文土器や石器が出土しました。展示では遺物のほかに発掘調査風景など、地元の方により親近感を抱いていただけるような写真パネルも掲示しました。皆様の関心も高く、熱心にご覧いただきました。



配布資料(写真撮影:フォーカル)

## 平成27年度企画展「谷底からよみがえった大武遺跡」終了しました

平成27年7月18日から28年1月24日に新潟県埋蔵文化財センターの企画展示室において長岡市大武遺跡の縄文時代から戦国時代の出土品を展示しました。

会期中は展示解説会4回（申込不要）、講演会6回（各回定員80名・要申込み）を開催しました。講演会では大武遺跡を中心として、地質、縄文時代、弥生時代、玉作り、古墳時代について演題を設定し、多くの方にご参加いただきました。



講演会の様子

## 「平成25・26年度 新資料展」開催中

平成25・26年度に発掘調査した遺跡の出土品を平成28年2月1日から埋蔵文化財センターに展示しています。展示品は昨年9月6日に柏崎市文化会館アルフォーレにて開催した「第20回遺跡発掘調査報告会」で展示した遺跡のうち下記の5遺跡です。会期は7月中旬までを予定しています。この機会に是非ご覧ください。

遺跡名	所在地	時代・時期	主な展示品
山口野中遺跡	阿賀野市	縄文時代晩期	縄文土器・石鏃・垂飾・石冠・アスファルト塊
余川中道遺跡	南魚沼市	古墳時代／平安時代	土師器・土製勾玉／「嘉川」の漆書がある須恵器杯
清水田遺跡	上越市	鎌倉時代～室町時代	瀬戸美濃焼・鉄鍋・鉄瓶・転用硯・銭貨
新町遺跡	阿賀野市	室町時代	青磁・白磁・朝鮮陶器皿・茶臼・るつぽ
宝田遺跡	柏崎市	平安時代／鎌倉時代～室町時代	灰釉陶器皿／青磁・おにぎり状炭化米



山口野中遺跡の展示



清水田遺跡の展示

## 校外学習・出前授業・生涯学習にご活用ください

平成28年度も積極的に校外学習や出前授業に対応します。下記活動例のように周辺施設も合わせた複合的な校外学習をお勧めしていますが、校外学習に限らず学童保育・PTA行事や自治会の研修にもご活用ください。27年度は、出前では学童保育・小学校の文化祭での勾玉作り体験、施設利用では自治会で「花と遺跡のふるさと公園」をめぐる途中に見学と休憩にお立ち寄りいただきました。

詳細についてのお問い合わせは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団普及班（電話：（0250）25-3981）までお気軽にどうぞ。

### 活動例

☆複数クラスは入れ替え制で対応できます。  
9時30分 活動開始

#### 新潟県埋蔵文化財センター

・センター紹介他  
→ 火起こし体験  
→ 石器使用体験  
→ 館内見学  
→ 【昼食】

徒歩約10分

#### 古津八幡山遺跡歴史の広場

・ガイダンス施設  
・弥生の丘展示館にて展示を見学  
→ 史跡公園にて復元された竪穴住居や古墳を見学

#### 金津層の露頭

・地層見学

バス約15分

14時30分 活動終了

埋蔵文化財センターでの**校外学習**、各学校への**出前授業**のどちらにも対応します。お気軽にご相談ください。



## 県内の遺跡・遺物92

まつもと かい どう  
松 本 街 道

(平成14年 3 月19日 国指定史跡)

(遺跡所在地：糸魚川市大字大野ほか 管理者：糸魚川市ほか)

まつもとかいどう  
松本街道とは糸魚川市（越後）と長野県松本市（信濃）を結ぶ約120kmの旧街道の名称です。この道は越後から信濃へ塩や海産物を運んだことから、「塩の道」とも呼ばれます。

海と山の交流は縄文時代に遡ると考えられますが、街道が史料に登場するのは戦国時代です。時代の緊張が伝わる古文書には、「一 此道筋通用之者 武具馬具通用堅可為停止事 持参之者有候ニおみてハ首を刎可申事（以下略）天正二年戌八月上杉謙信（判）」

とあり、天正2年（1574）の国境の厳しい警備を命ずる関所法度から、関所や道の存在を知ることができます。

江戸時代以降は物流が盛んで、越後から塩や海産物、信濃からは大豆、タバコ、生薬、綿などが運ばれました。糸魚川では塩や海産物を扱う者（店）を信州問屋と呼び、集められた荷を背負う人を「ボッカ」（歩荷）、牛で運ぶ人を牛方といいます。街道は糸魚川の町を出て南下し、大野村を経て、根知川沿いに進み、谷奥の山口へ向かいます。途中で茶屋跡や「右ハ井ノ口村入口 左ハ志ん志やう口」と刻まれた道標、石仏があります。大野ではウトウと呼ばれる堀切状の道を往きます。山口には番所がありました。ここから国境までは登りです。途中のヒナタ茶屋跡は4×2間の建物礎石が残り、土間には大きな囲炉裏があります。さらに進み白池にはボッカ宿がありました。ここから大網峠を越えて長野県小谷村大網に至ります。街道が良好に保存されている大野から仁王堂、山口から白池間の5kmは国史跡に指定されました。荷の運搬具など「姫川谷のボッカ習俗資料」も平成16年に国重要有形民俗文化財に指定され、「塩の道資料館」で見学することができます。



松本街道(大野のウトウ)



道 標

## 【問い合わせ先】

糸魚川塩の道起点まつり 毎年 5 月 2 日

秋の塩の道の旅 毎年10月下旬

糸魚川市観光協会 観光案内所

TEL (025) 553 - 1785

松本街道について

糸魚川市文化振興課

TEL (025) 552 - 1511 (内線2261～2263)

8:30～17:15 (平日のみ)

## 埋文にいがた No.94

発行 (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1  
TEL (0250) 25-3981  
FAX (0250) 25-3986  
E-mail: niigata@maibun.net  
URL: http://www.maibun.net  
印刷 阿部印刷株式会社